

岡山県感染症週報 2017年第42週 (10月16日～10月22日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

【お知らせ】 次週、2017年第43週(10/23～10/29)の感染症週報は、11月6日(月)にホームページへ掲載いたします。

◆2017年第42週(10/16～10/22)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第40週	2類感染症	結核	1名(60代 男)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名(O157:50代 男)
第41週	4類感染症	日本紅斑熱	1名(80代 男)
	5類感染症	後天性免疫不全症候群	1名(30代 男)
		梅毒	1名(40代 男)
第42週	2類感染症	結核	5名(乳児 女 1名、60代 男 1名、70代 男 1名、80代 男 1名、90代 女 1名)
	4類感染症	レジオネラ症	1名(50代 男)
	5類感染症	後天性免疫不全症候群	1名(50代 男)
		梅毒	3名(30代 女 1名、40代 男 1名、50代 男 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

- RSウイルス感染症は、県全体で103名(定点あたり2.06→1.91人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で58名(定点あたり0.80→1.07人)の報告があり、前週より増加しました。

- 腸管出血性大腸菌感染症**は、第40週(10/2～10/8)に1名の報告があり、2017年第42週まで(～10/22)の報告数は57名となりました。岡山県では、ひきつづき「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を発令し、注意喚起を図っています。手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで十分に火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
- 日本紅斑熱**は、第41週(10/9～10/15)に1名の報告があり、2017年第42週まで(～10/22)の報告数は7名となりました。この感染症は、病原体(日本紅斑熱リケッチア)を保有するマダニに咬まれることで感染します。潜伏期間は2～8日程度で、発熱、発しん、刺し口が3大特徴です。作業やレジャーなどで野山や草むらに入るときは、肌の露出を少なくするなど、マダニに咬まれないように注意しましょう。県内の発生状況など、詳しくは、「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
- RSウイルス感染症**は、県全体で103名(定点あたり2.06→1.91人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。患者数の大きな増加はみられませんが、依然として過去10年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では倉敷市(3.82人)、岡山市(2.86人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域と真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。全国の第41週(10/9～10/15)の発生状況は、定点あたり報告数が1.46人であり、4週連続で減少しました。都道府県別では、熊本県(4.02人)、徳島県(3.17人)、福岡県(3.07人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。例年、秋から冬にかけて多くの患者が報告されています。ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、特に重症化しやすい乳児がいる家庭では、感染予防に努めてください。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で58名(定点あたり0.80→1.07人)の報告があり、前週より増加しました。過去10年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、倉敷市(1.64人)、岡山市(1.36人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。この感染症は、突然の発熱と体のだるさ、のどの痛みで発症し、しばしばおう吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌(イチゴのように赤くブツブツしている舌)がみられることがあります。のどの痛みがひどい場合は、柔らかい薄味の食事など調理の工夫をし、こまめな水分補給を心がけてください。就学前から学童期の小児に多く、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗いを励行するなど、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★★★
咽頭結膜熱			A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ：大幅な増加 ：増加 ：ほぼ増減なし ：大幅な減少 ：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

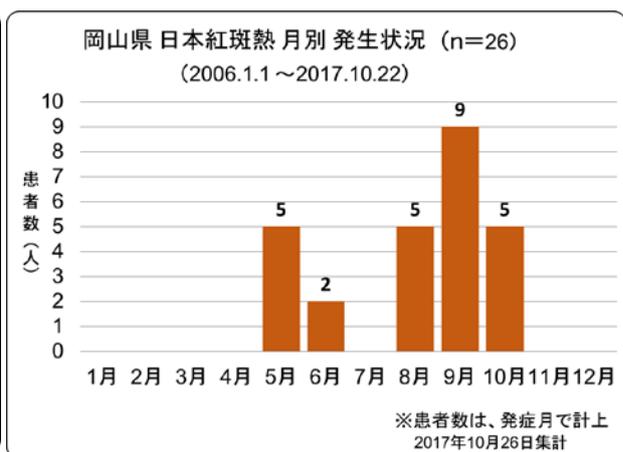
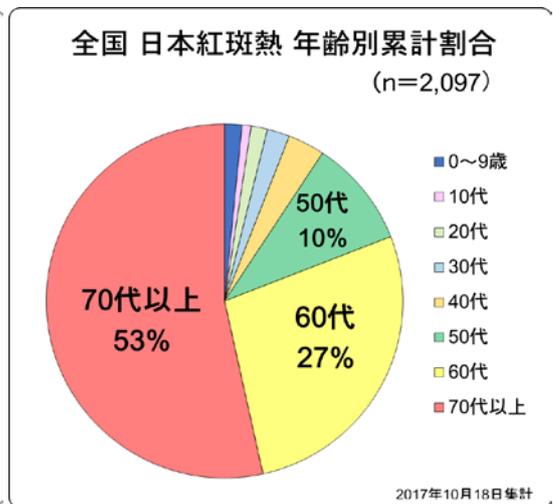
日本紅斑熱

日本紅斑熱は、リケッチア・ジャポニカ（日本名：日本紅斑熱リケッチア）という病原体を保有するマダニに咬まれることで感染します。潜伏期間は、2～8日程度で、頭痛、発熱、全身倦怠感を伴って発症します。つつが虫病と同様に発熱、発しん（手足から全身に広がる）、刺し口が3大特徴です。早期に診断し、適切な治療薬（テトラサイクリン系、重症例ではニューキノロン系の併用）を投与することにより予後は良好ですが、治療が遅れると重症化し、死に至ることもあります。

【全国及び県内の発生状況】

2006年～2016年までの全国の累計報告数は1,814名で、2014年以降毎年200人以上の患者が報告されています。2017年第41週まで（～10/15）の報告数は、すでに283名であり、前年（276名）を上まわっています。年齢別累計割合では、70代以上が半数以上を占めており、50代以上で多くの患者が報告されています。発生地域は、西日本の太平洋沿岸が中心ですが、日本海側や東北地方でも患者発生が確認されています。夏～初冬にかけて多く発生しますが、真冬を除いてほぼ1年中感染する可能性があります。

2009年～2017年第42週までの岡山県の累計報告数は26名であり、2009年10月の初めての発生から年々増加傾向にあります。



[『日本紅斑熱』に注意しましょう。\(岡山県感染症情報センター\)](#)

[日本紅斑熱 \(国立感染症研究所\) つつが虫病・日本紅斑熱 2007～2016年 \(国立感染症研究所\)](#)

レジャーや作業など野外で活動する機会が増える季節です。
ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱、つつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもいます。春から秋(3~11月)にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。また、動物からヒトへ伝播する感染症を防ぐため、野生動物との接触は避け、動物に触った後は、必ず手洗いをするなど感染予防に努めましょう。



フタトゲチマダニ
岡山県環境保健センター

【野外で活動する際の予防のポイント】

- ◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
- ◎服の上や肌の露出部分に、虫よけ剤(ディートやイカリジンを含むもの)を使用しましょう。
(虫よけ剤を子供へ使用する際は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。)
- ◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。
- ◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。

【動物と触れ合う際の予防のポイント】

- ◎屋内のみで飼育されている動物については、感染のおそれはありませんが、過剰な触れ合い(キスや口移しでエサを与えたり、動物を布団に入れて寝ることなど)は控えましょう。
- ◎動物に触ったら必ず手洗い等しましょう。
- ◎ペットにもダニがつかないように、虫よけ剤などで予防しましょう。ダニがついていたときは、動物用の駆除剤等で適切に駆除しましょう。
- ◎飼育している動物の健康状態の変化に注意し、体調不良の際には動物病院を受診しましょう。

【マダニがついていたとき】 ~マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません~

- ◎容易に取り除くことができる場合は、すぐに取り除いてください。その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。なお、取り除いたマダニは、ビニール袋などに入れて、保存しておいてください。
- ◎容易に取り除くことができない場合は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。

【症状がでたとき】

- ◎野外活動の後、数日から2週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。また、取り除いたマダニを保存している場合は、医療機関を受診する際に持参してください。
- ◎体調不良の動物と接触したり、咬まれたりした後、体に不調を感じたら、早めに医療機関を受診してください。受診する際は、動物の健康状態や接触状況についても伝えてください。

[ダニ媒介感染症 \(厚生労働省\)](#)

[マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)

[マダニに注意! \(岡山県チラシ\)](#)

[重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\) に関する Q&A \(厚生労働省\)](#)

保健所別報告患者数 2017年 42週(定点把握)

(2017/10/16～2017/10/22)

2017年10月26日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	5	0.06	-	-	5	0.31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	103	1.91	40	2.86	42	3.82	3	0.30	10	1.43	-	-	-	-	8	1.33
咽頭結膜熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	58	1.07	19	1.36	18	1.64	8	0.80	6	0.86	2	0.50	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	281	5.20	72	5.14	43	3.91	49	4.90	37	5.29	23	5.75	9	4.50	48	8.00
水痘	8	0.15	4	0.29	2	0.18	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
手足口病	77	1.43	42	3.00	19	1.73	9	0.90	5	0.71	-	-	1	0.50	1	0.17
伝染性紅斑	8	0.15	1	0.07	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	5	0.83
突発性発疹	14	0.26	5	0.36	5	0.45	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	0.06	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
流行性耳下腺炎	8	0.15	3	0.21	2	0.18	1	0.10	-	-	1	0.25	1	0.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	10	0.83	8	1.60	1	0.25	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2017年 42週(発生レベル設定疾患)

(2017/10/16~2017/10/22)

2017年10月26日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	5	0.06	-	-	5	0.31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	58	1.07	19	1.36	18	1.64	8	0.80	6	0.86	2	0.50	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	281	5.20	72	5.14	43	3.91	49	4.90	37	5.29	23	5.75	9	4.50	48	8.00
水痘	8	0.15	4	0.29	2	0.18	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
手足口病	77	1.43	42	3.00	19	1.73	9	0.90	5	0.71	-	-	1	0.50	1	0.17
伝染性紅斑	8	0.15	1	0.07	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	5	0.83
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	0.06	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
流行性耳下腺炎	8	0.15	3	0.21	2	0.18	1	0.10	-	-	1	0.25	1	0.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	10	0.83	8	1.60	1	0.25	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2
を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2017年 第42週 2017/10/16~2017/10/22)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	5	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	103	24	25	31	12	9	1	-	1	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	58	-	2	1	1	10	8	4	8	6	4	6	7	-	1
感染性胃腸炎	281	4	28	49	27	22	19	19	12	6	7	10	25	13	40
水痘	8	-	-	-	1	3	1	-	1	-	1	1	-	-	-
手足口病	77	-	3	32	14	8	7	2	3	4	2	1	1	-	-
伝染性紅斑	8	-	-	2	2	-	2	-	-	1	1	-	-	-	-
突発性発疹	14	-	7	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	8	-	-	-	1	-	-	2	1	3	-	-	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	10	-	-	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	2	3	-	1	-	-

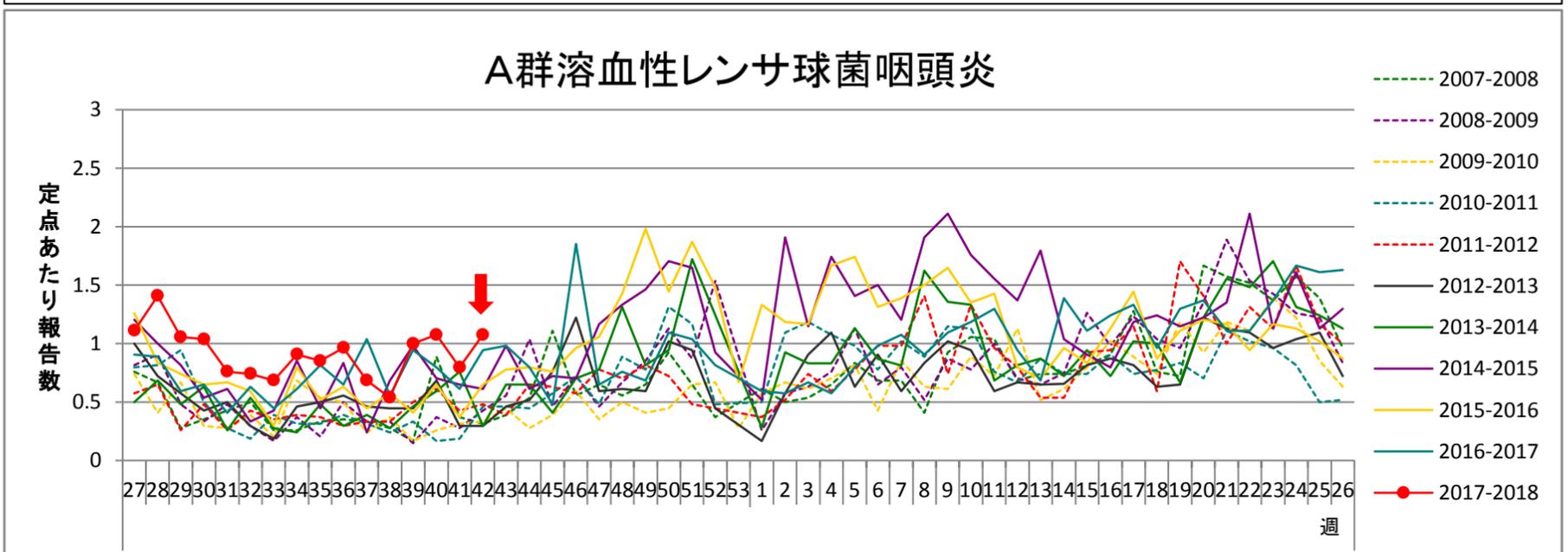
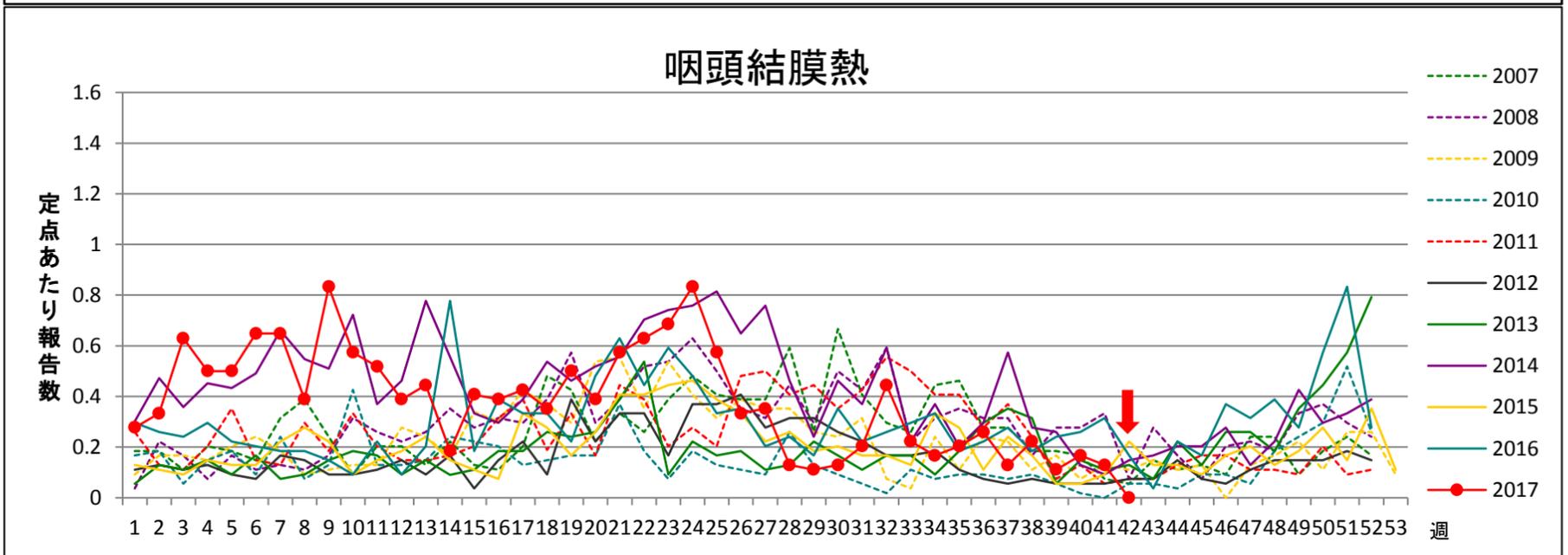
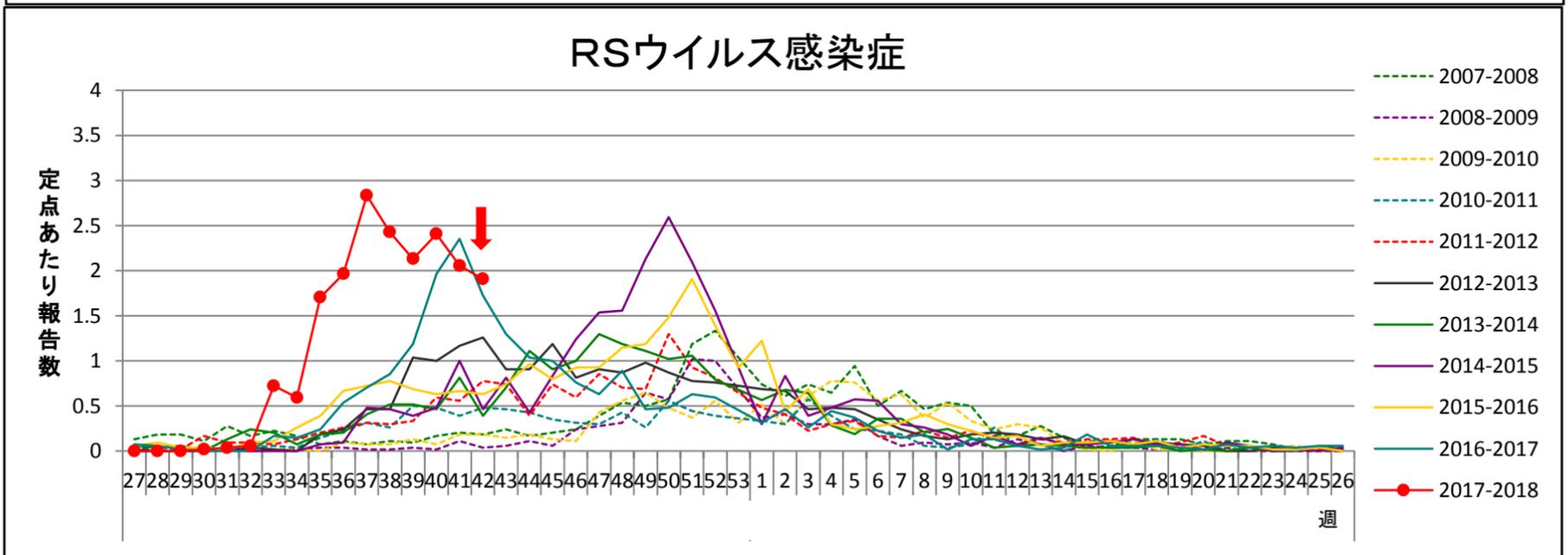
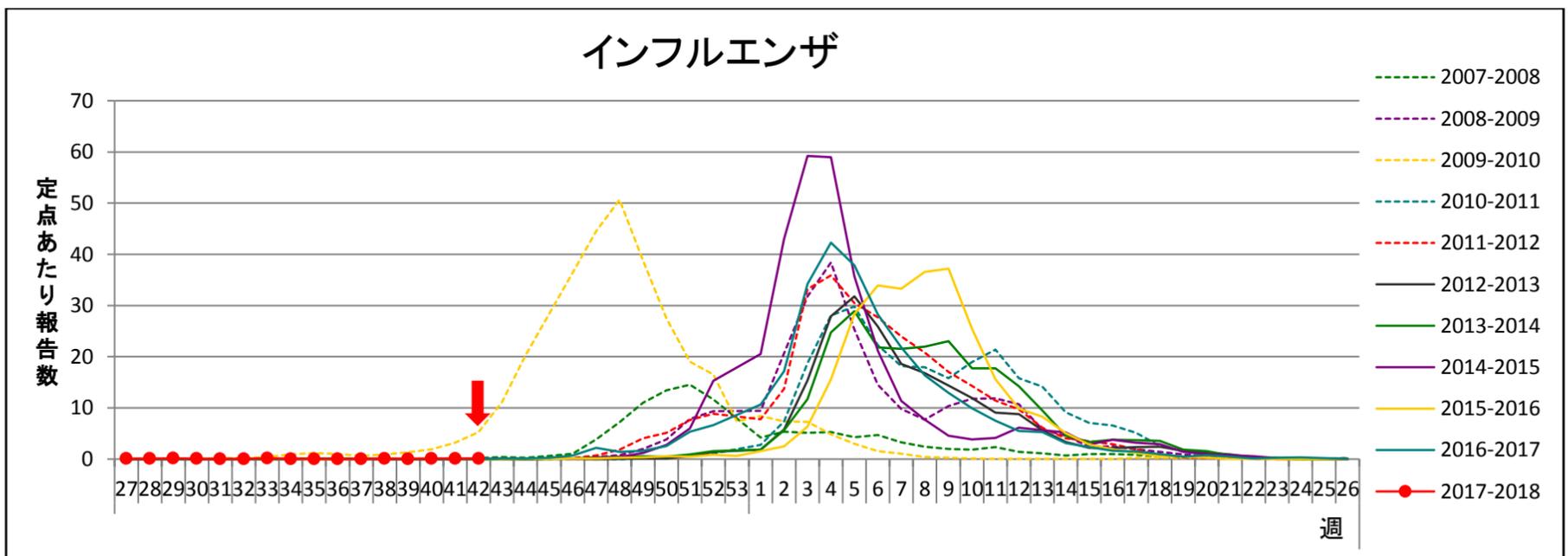
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

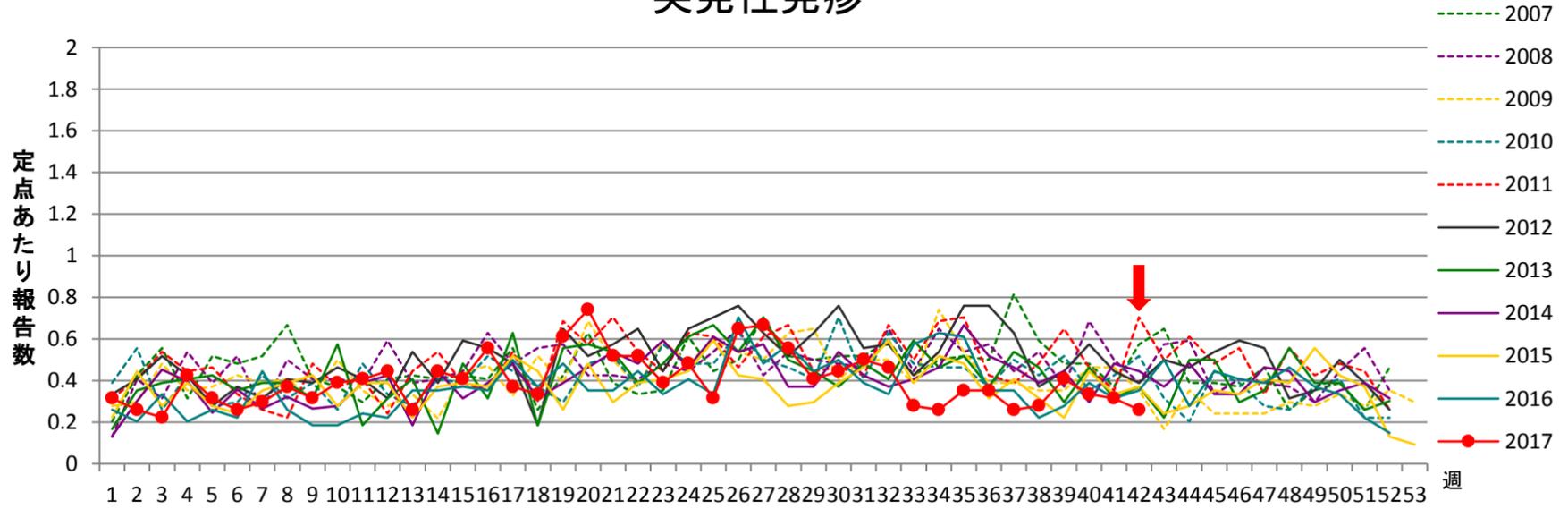
全数把握 感染症患者発生状況

2017年 42週

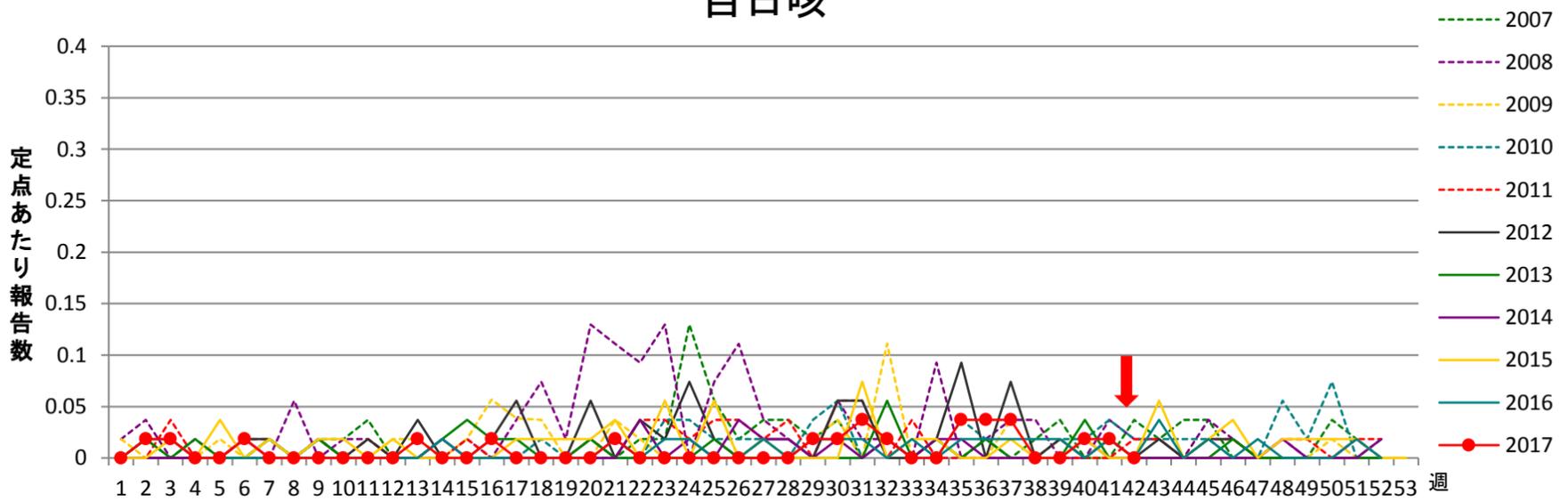
分類	疾病名	2017			疾病名	2016			疾病名	2017			2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年			
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	5	282	311	ジフテリア	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
三類	コレラ	-	2	-	細菌性赤痢	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	57	65	-	-	-
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-	-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	4	3	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	1	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	-	-	-
	デング熱	-	2	1	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	1	日本紅斑熱	-	7	5	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	22	26	-	-	-
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	19	18	ウイルス性肝炎	-	8	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	12	28	-	-	-
	急性脳炎	-	3	11	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	3	-	-	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	7	7	後天性免疫不全症候群	1	15	12	ジアルジア症	-	-	1	-	-	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	7	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	31	32	-	-	-
	水痘(入院例に限る。)	-	4	3	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	3	136	40	-	-	-
	播種性クリプトコックス症	-	1	2	破傷風	-	-	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	6	1	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-	-	-	-
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-



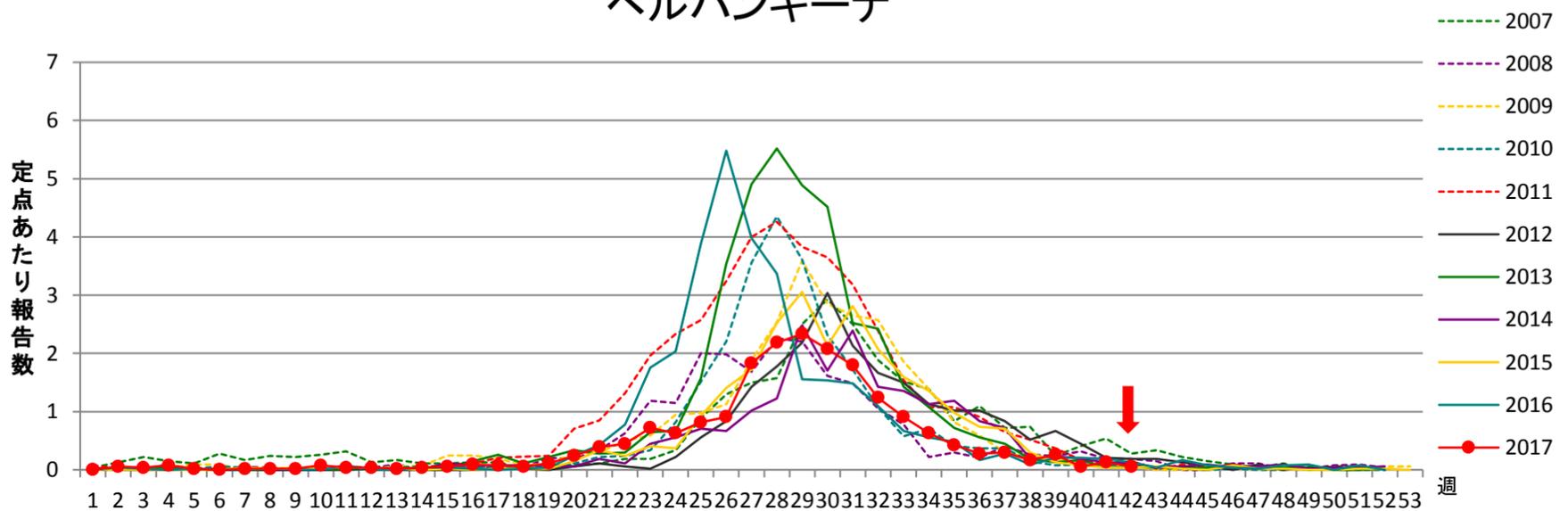
突発性発疹



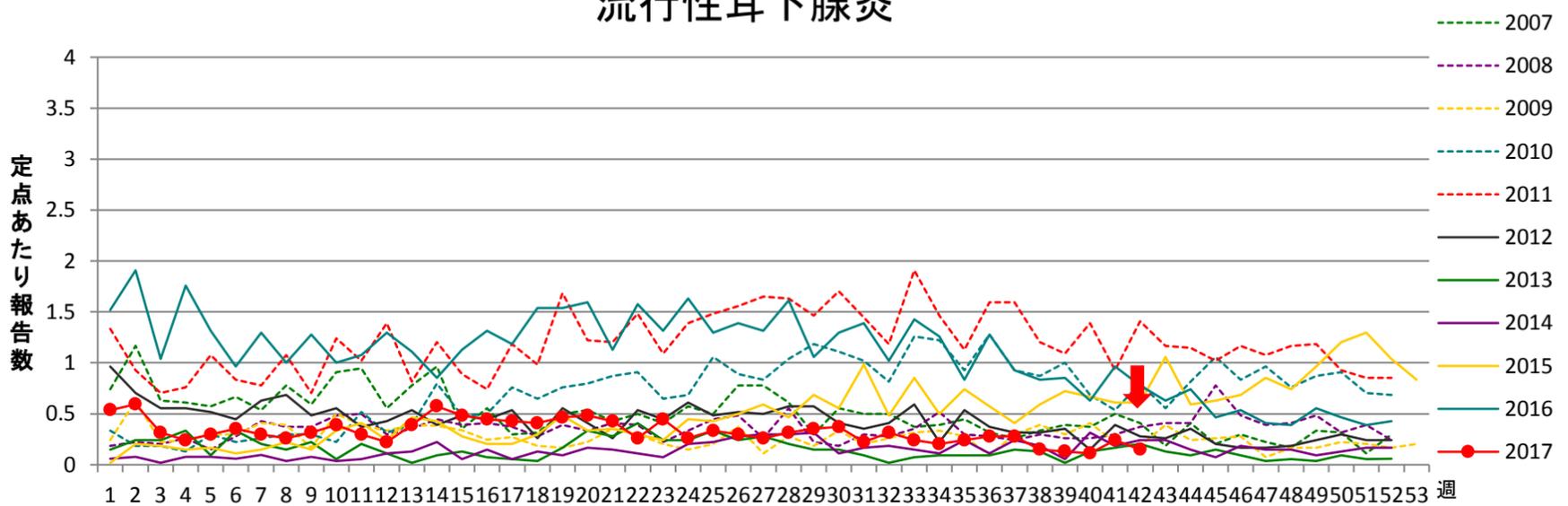
百日咳



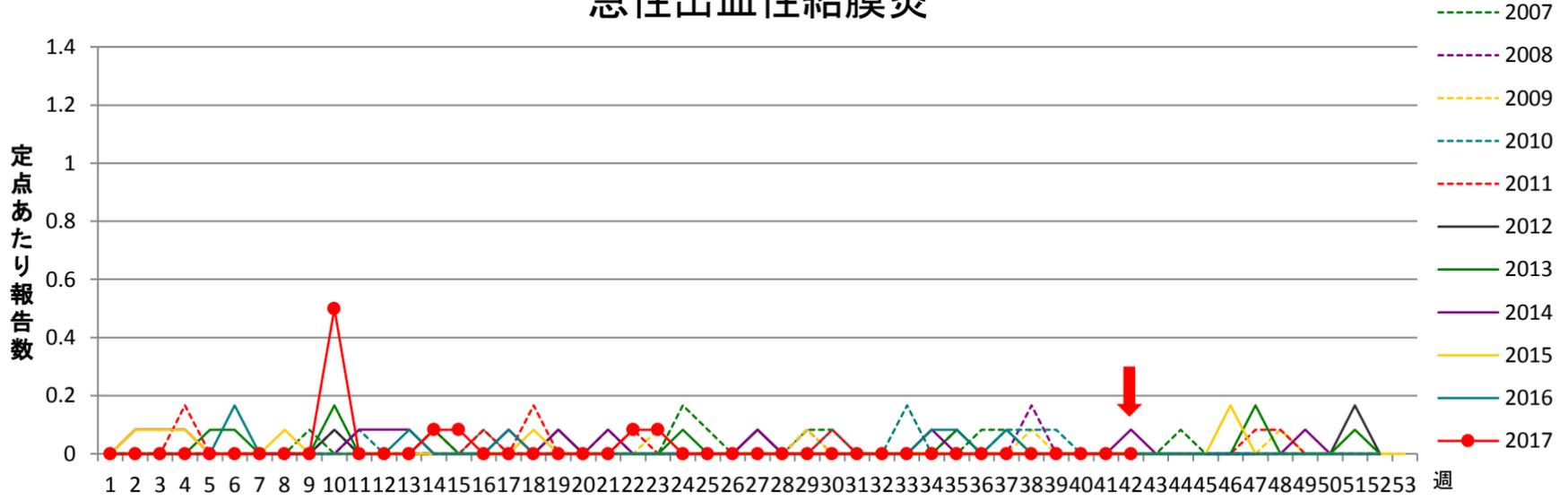
ヘルパンギーナ



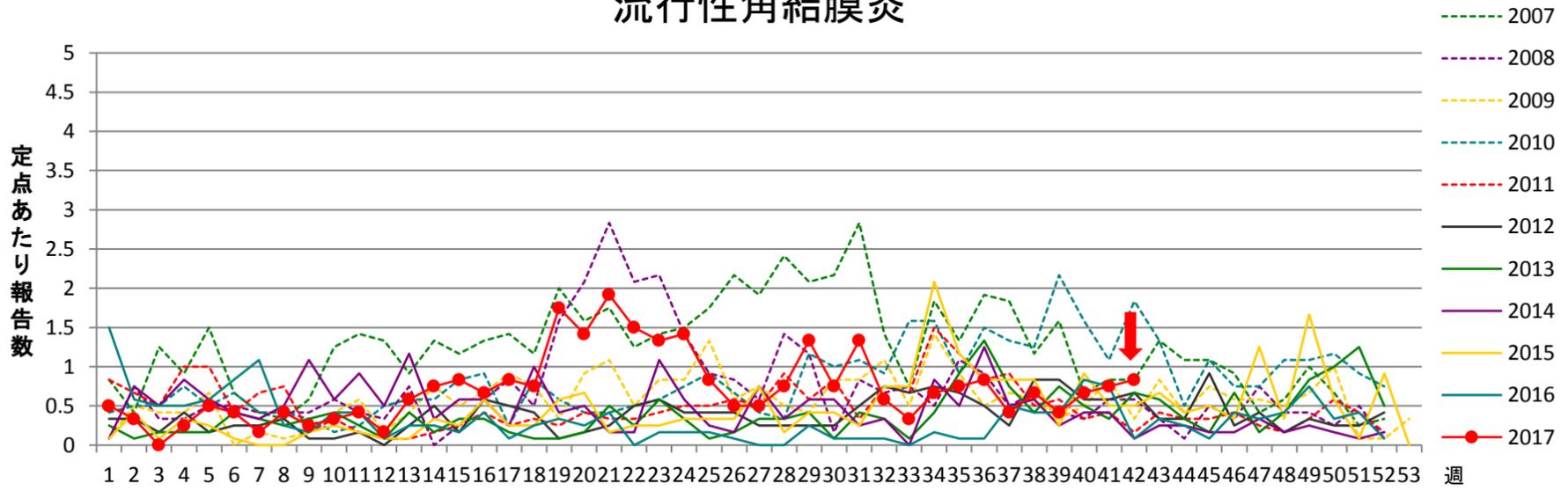
流行性耳下腺炎



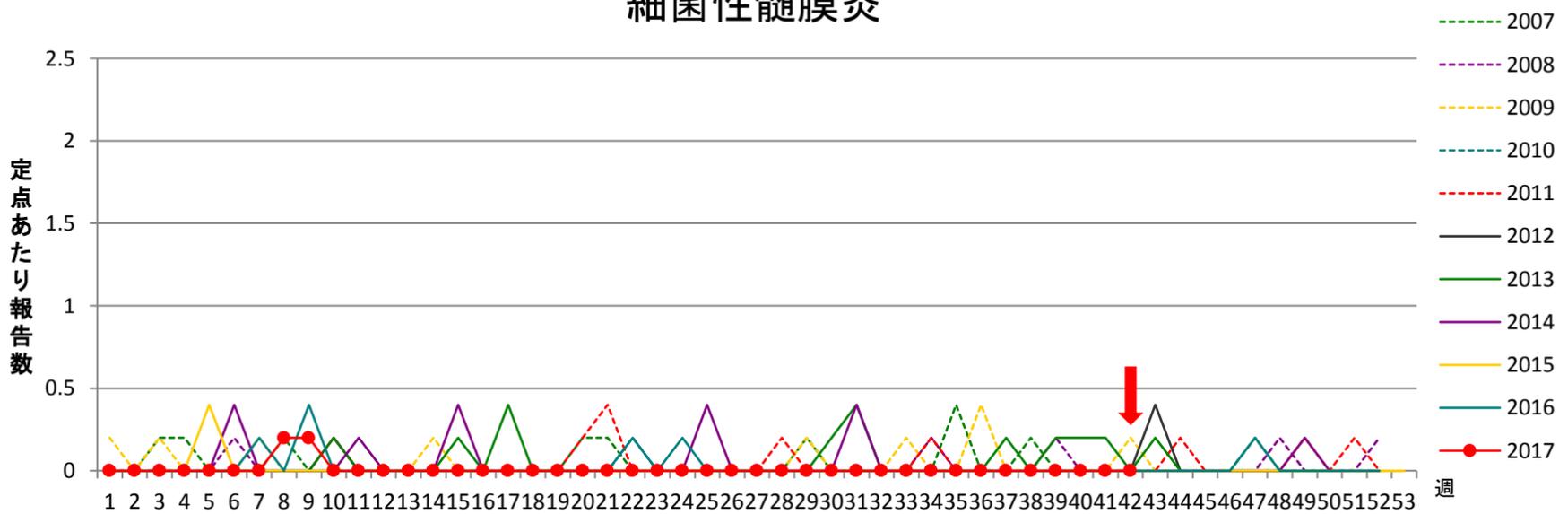
急性出血性結膜炎



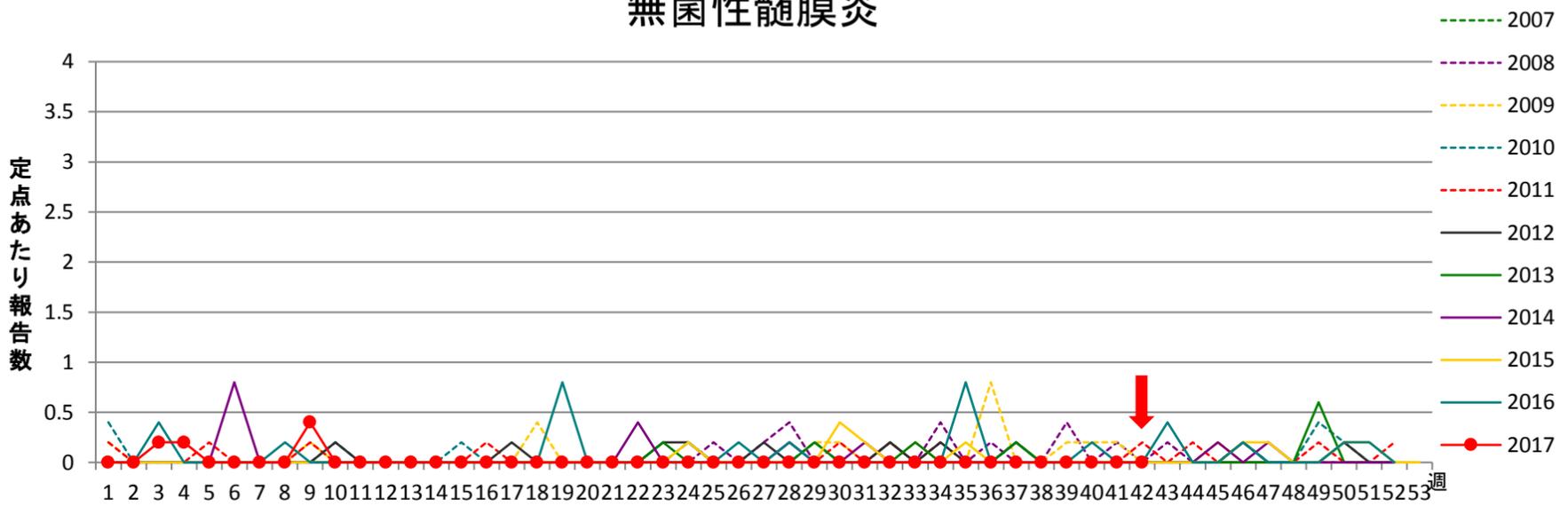
流行性角結膜炎



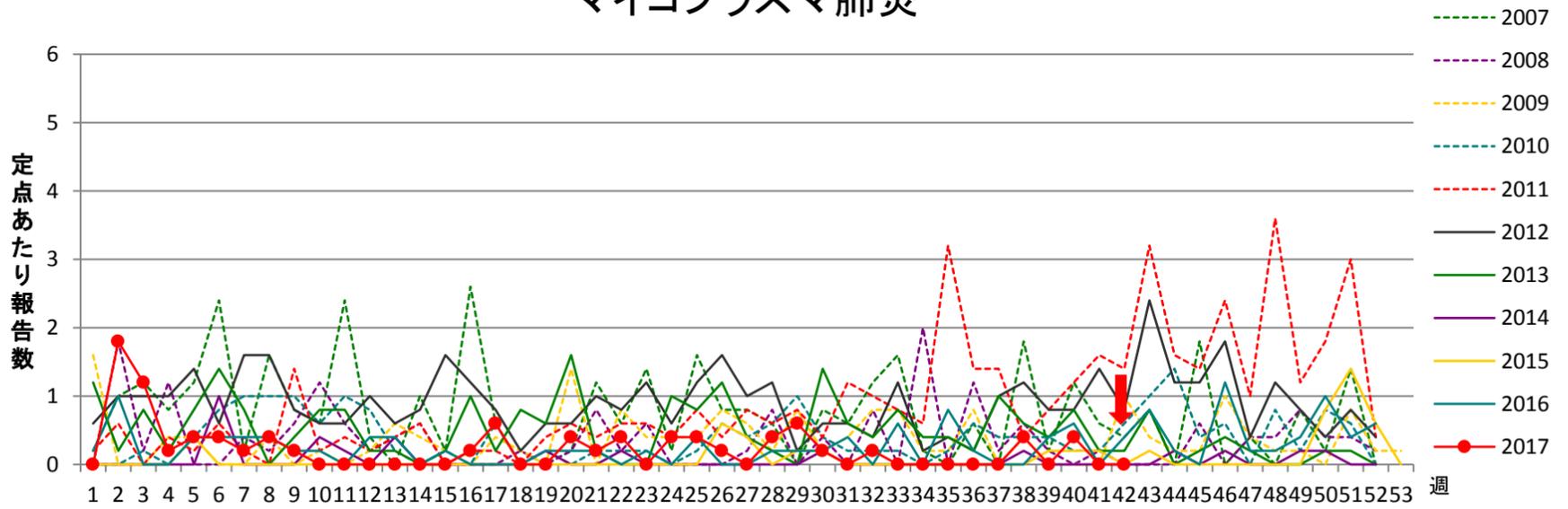
細菌性髄膜炎



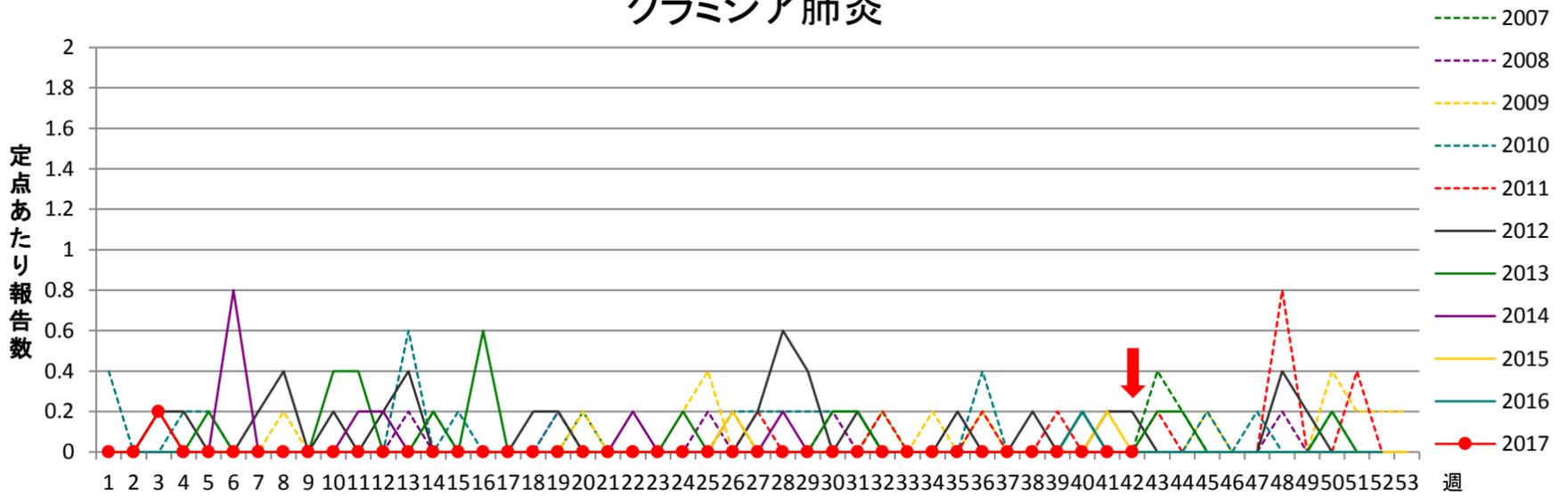
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

